

市政への期待と抱負



(はじめに)

市政は、わたしたち市民が主人公です。道路の整備を早く、緑豊かなまちに、子どもたちに遊び場を、新しいコミュニティの形成の場をなどという方や無関心なかたがたもみな向日市民です。

ことしにける市政への期待として、市民の中から寄稿がありました。

それでは、みなさんとともに、拝見してみましよう。

一九七五年の新しい幕があきました。

新年の夜明けは、あすへの希望の舟出といわれ、ことしこそは、と胸ふくらませた期待が、市民のみなさんの心の中にあると思えますが、それぞれの夢を育てていかれることを、お祈り申し上げます。

ところで、市政に対するわたしの夢ってなんだろう。

市政への期待といわれても、今まで、考えもしなかったこと。

夢というよりも、もっと現実的なこととして、市政への抱負を、

「手話通訳者」を設置してほしい。

わたしは、昭和四十八年度から、市の福祉事務所に民間通訳

者として登録され、ろうあ者の人々と接する機会も多くなりました。

その中で、市役所に通訳者を



(秋山由美さん・20代)

手話通訳者の設置を

ろうあ者のために

——と願う、ろうあ者の人たちの声をよく聞きます。

去年の六月から、教育委員会主催による、「ろうあ者学級」

てほしいと思います。ろうあ者の人たちとともに、手話通訳者が設置されることを期待しています。

もはじまり、スポーツなどを楽しんでいきます。一般の人たちにも、参加してもらい、ろうあ者の人々と交流がでないものかしら。役所の人たちが、手話を覚えて下さったら。そして、もっと楽しい「ろうあ者学級」になるのになあ、と小さな願いを、通訳するときにもいつも思うわたしです。今、役所を利用するろうあ者の数は、ごく少数だそうです。

誰もが平等で、楽しく暮らせるのなら、ろうあ者の要求を、聞きだしてほしいと思います。

という主婦に格好のスポーツ、軟式テニスを始めました。

動きとはいいながら、洗ったリ、掃除したりが多過ぎて、う



(荒木孝子さん・30代)

市民が楽しめる施設を

スポーツで明るく

あけましておめでとうございます。新しい年の始めに、人々の顔がいつもより明るく、美しく輝いて見えます。それは、「今年こそは」と希望に輝いているからでしょう。

見聞きするたびに高くなっている物価、あるいは今年、中学浪人がふえるだろうという話などなど、神経質に考えすぎる、顔面神経痛になりそうなのは、わたしだけでは、わたしだけでは、わたしだけでは、

スポーツをして明るく生きる。いつまでも、若々しく、美しくありたい。この楽しさをできるだけ多くの人とわかち合いたい。人間疎外におちいりやすい今の世で、とくに向日市のように急激な過密化によって、いろいろな地方の人々が集まっているところこそスポーツを通じて、人と人との心のふれあいが大切だと思えます。

雨の日も、風の日でも、そして雪が降っていても、スポーツが楽しめる体育館、暑い夏の日には、市民みんなが楽しめるプールなど、こどもから老人まで、気軽に楽しめるスポーツ施設を通じて、健康で明るい毎日が送れたら、どんなにすばらしいでしょう。



をつくる市政を

